

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

大学入試センター試験の出願も終わり、いよいよ本格的な受験シーズンを迎えます。多くの受験生が第1志望校合格に向けた対策に全力を注いで取り組んでいることかと思えます。

一方でAO入試や推薦入試は、出願、試験、発表を経て、すでに合格を勝ち取った方も出始めております。これらの入試は現在拡大傾向にあり、その重要性は高まり始めています。これから大学受験を迎える高校1年生、2年生の方々にとってAO入試や推薦入試は、どのような選択肢となるのでしょうか。

AO入試や推薦入試での入学者は年々増えており、2017年度の入試は私立大学では約50%、国立大学では約15%をAO入試、推薦入試の入学者が占めています。国立大学協会は20年度までに国立大学のAO入試、推薦入試での合格者の占める割合を入学定員の30%にすることを目標にしており、その入試の重要性も高まってきています。

特に大学入試センター試験が廃止され、

Q. AO入試、推薦入試の入学者は？

大学入学共通テストが実施される21年度の入試は学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を多面的・総合的に評価することを文部科学省は目指しています。15年度から東京大学でも推薦入試が始まり、大学入試においてAO入試や推薦入試は一般入試と並ぶ選択肢の一つと言えます。

AO入試や推薦入試は一般入試と異なり学力試験を中心とした試験ではなく、学力だけでは測れない高校生活の中での経験・活動記録や、面接・小論文や大学ごとに出される課題などを通し、特に今後に関しては受験生の主体性・多様性・協働性を測る入試です。

国立大学の中には、1月に実施する大学入試センター試験で一定の成績を収めることが求められる場合もあります。まずは書類選考が行われるため、出願する大学の「志望理由書」や「自己アピール」、「高校生活の中で委員会活動やボランティア活動など」「部活動で頑張ったことや学んだこと」

など、いろいろな項目で文章を書けることが大切です。一貫性を持ち、かつ各大学が掲げる「アドミッションポリシー」を熟読して、大学側が求める人物像をしっかりと理解しておきましょう。

そしてその後の小論文や面接においては、事前に出願した書類に対して一貫性のある発言と、質問内容に対して適切な答えができるかどうかポイントになります。

一般入試とAO・推薦入試、どちらが自分自身に合った入試かどうか見極め、幅広い視点から大学入試を受験することが最も重要なことです。まずは各大学の入試情報に対してしっかりとアンテナを張りましょう。
(CG高等館・東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な「学び」の情報を紹介。今回は幼児教育編。



大学進学情報紙「TOSHIN TIMES」
CG高等館・東進衛星予備校各校舎で無料配布中

A. 拡大傾向で一般入試と並ぶ選択肢